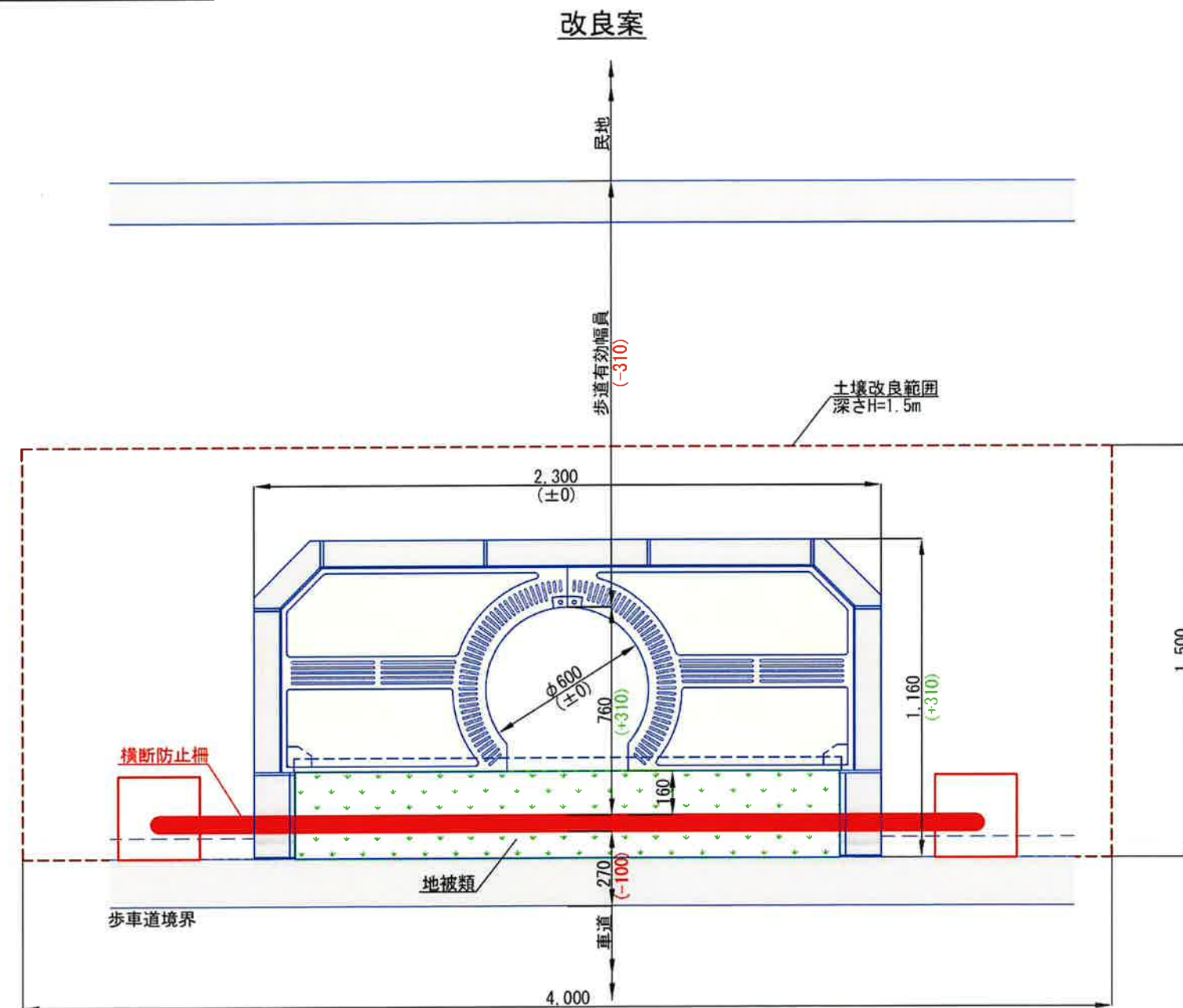
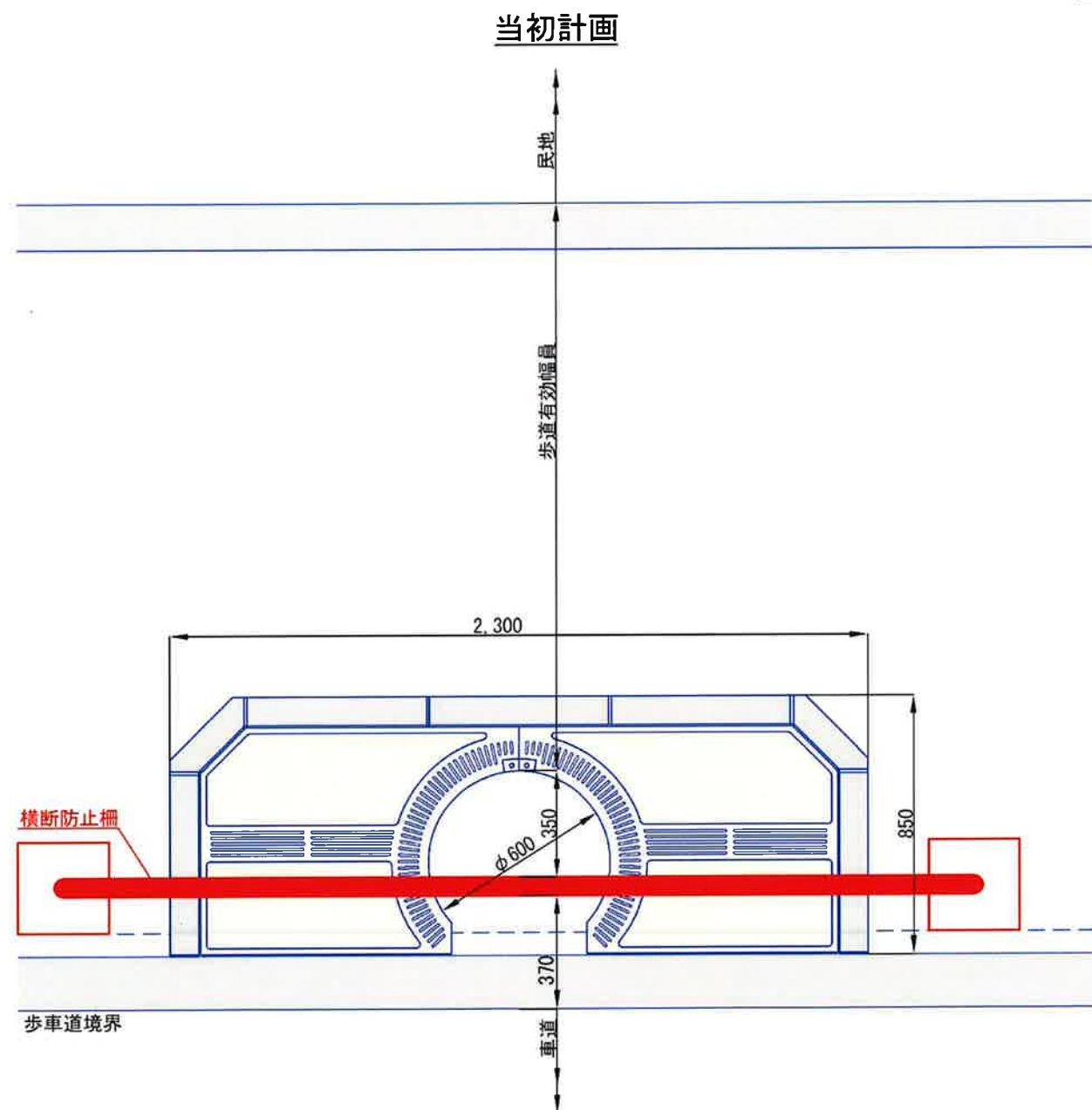


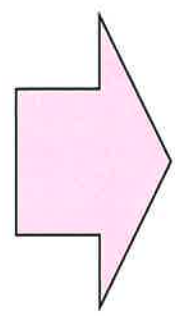
前回の協議会で整理された主な事項

植栽樹改良について



<当初計画の問題点>

- ① ツリーサークルと防護柵が近いため、樹木が成長した際に干渉する恐れがある。
- ② 開口部が少なく、根へ水や酸素を供給しにくい。
- ③ 土壤改良範囲が狭いため、根上がりする可能性がある。



<改良案>

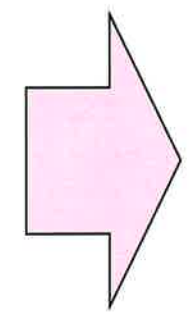
- ① 防護柵の基礎を改良し車道側へ 10cm 寄せ、16cm 離す。
- ② ツリーサークルを大きくし、根へ水や酸素を供給し易く改良。
- ③ 防護柵下に、地被類などの緑を追加。
- ④ 土壤改良範囲を大きく広げ (L4m*W1.5m*H1.5m)、根の成長を妨げない

前回の協議会で整理された主な事項

冠水対策について

＜落葉による水たまりについて＞

① 落葉などにより集水柵が塞がることで冠水するので対策をできないか。



＜方針・回答＞

① 二連集水柵や落葉が溜まっても雨水を処理できる集水柵を設置し排水処理能力を高める工夫をする。

	第1案：二連集水柵	第2案：冠水防止縁塊
製品写真		<p>歩道側からの排水も可能</p> <p>側面部からの排水が可能</p> <p>立面部の排水孔から排水</p> <p>水位</p> <p>目詰まりによる冠水イメージ図</p> <p>落ち葉やゴミが目詰まりしても安定した排水能力を維持します。</p> <p>新聞や雑誌等がグレーチング上に張り付いても、縁石部の排水孔から排水できます。</p>

前回の協議会で整理された主な事項

道路交通に関する課題について

<バス停について>

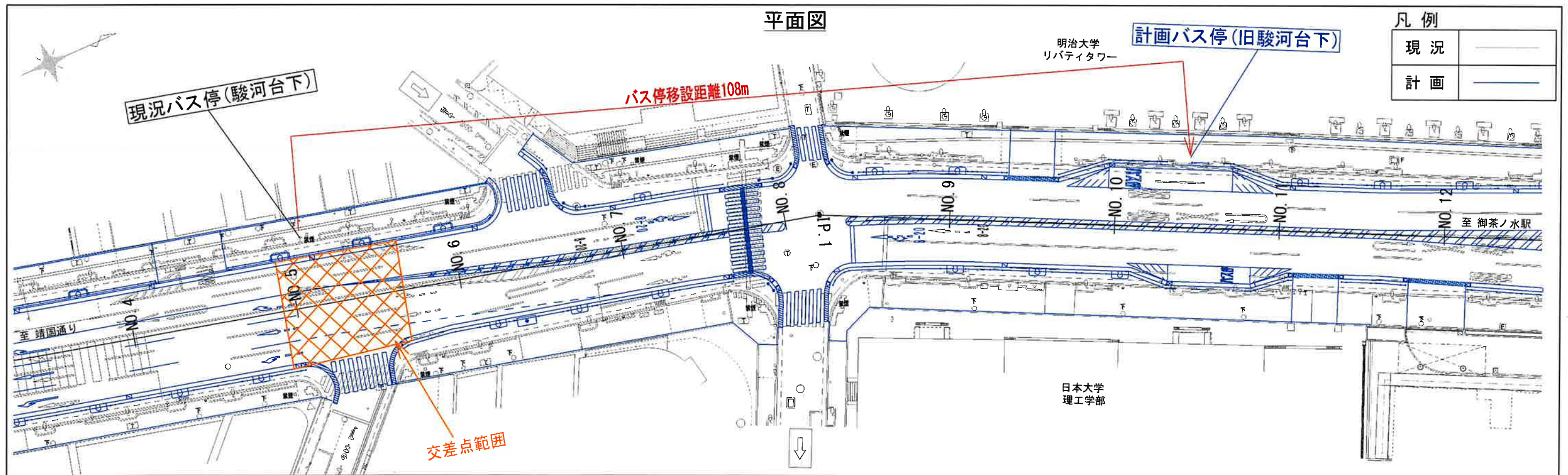
- ① バス停をなぜ現況の位置に設置できないのか。
- ② バスベイは必要無いのではないか。



<方針・回答>

- ① 現在のバス停位置は、交差点内であるため既存不適格となり移設が必要。前後のバス停間隔と歩道の有効幅員を考慮して計画の位置に移設する。
- ② 後続車による渋滞の発生や、側方通過する自転車の安全性を確保するため必要である。

※警視庁より指示



前回からの課題

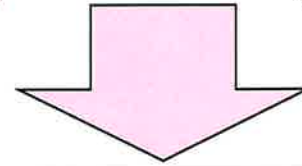
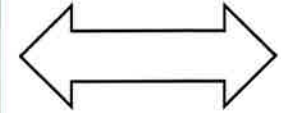
明大通りⅡ期工事区間の樹木の配置について

<車道側に植樹を求める声>

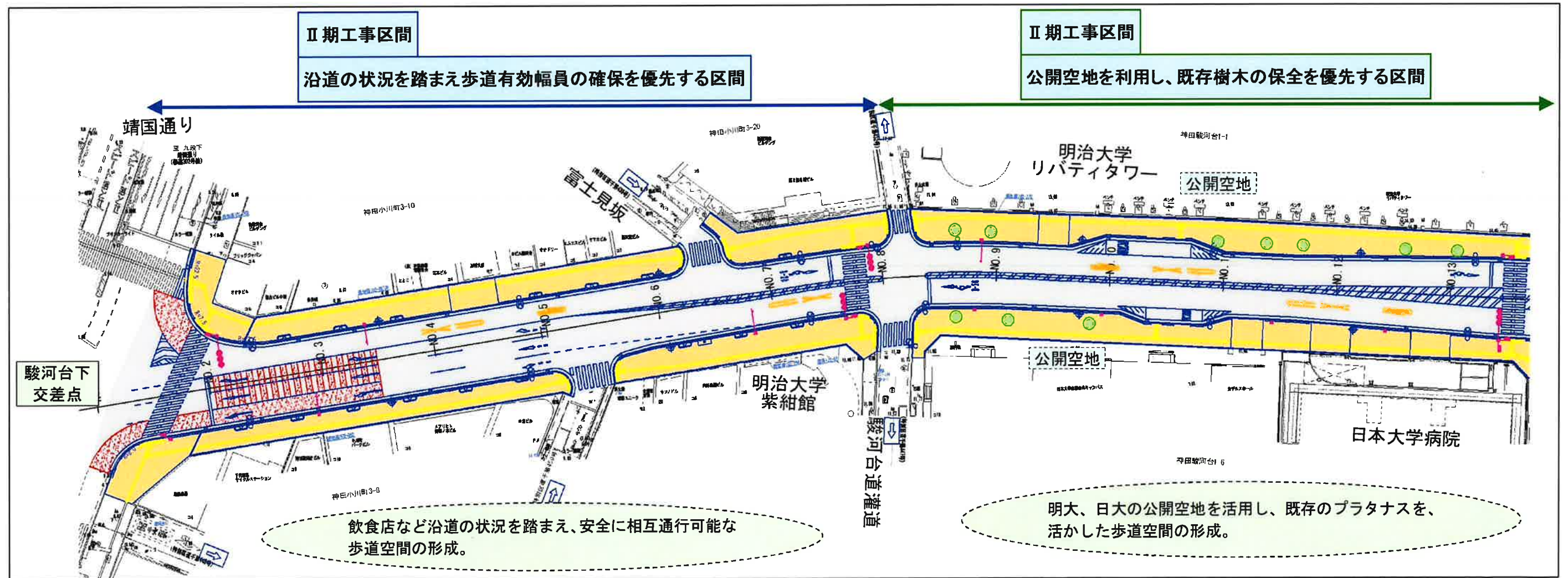
- ・連続した広い空間が無ければ、歩道拡幅した意味が無くなる。
- ・車いすのすれ違いが出来ないことや、傘同士がぶつかるなど支障がある。

<樹木の保全を求める声>

- ・プラタナス並木への愛着や文化的な価値を感じている。
- ・樹木が歩道の真ん中にあることで、緑陰の恩恵を受ける。



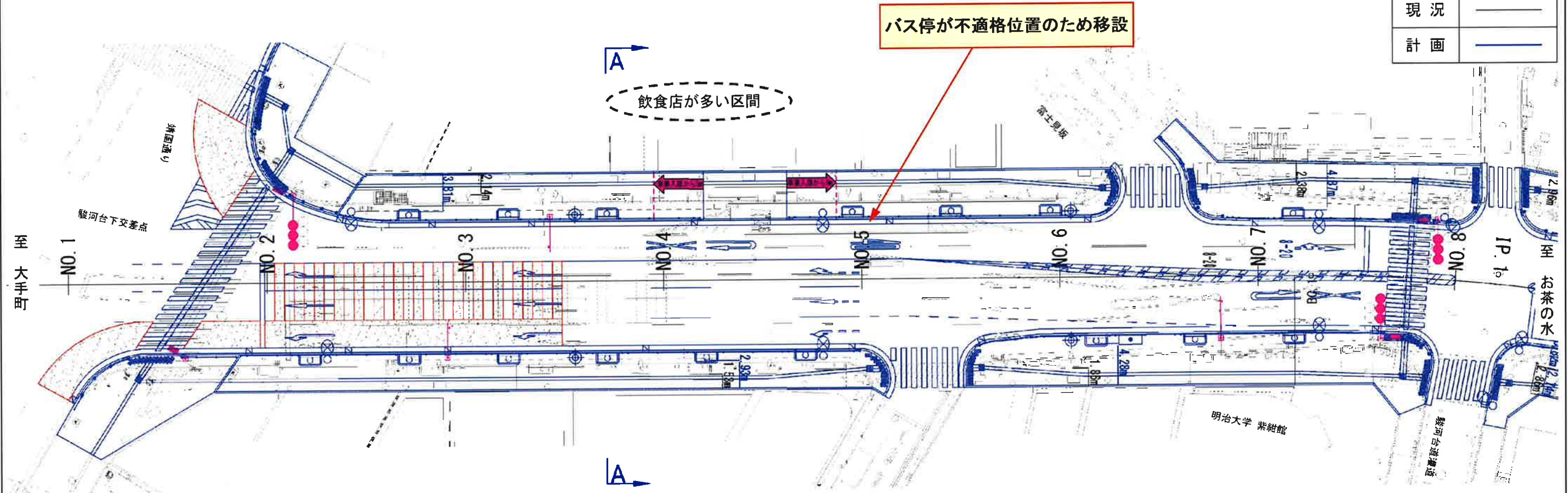
【裁定案】Ⅱ期工事区間については、双方の意見を取り入れ2つのゾーンに分けて整備を行なう



Ⅱ 期工事区間 沿道の状況を踏まえ歩道有効幅員の確保を優先する区間

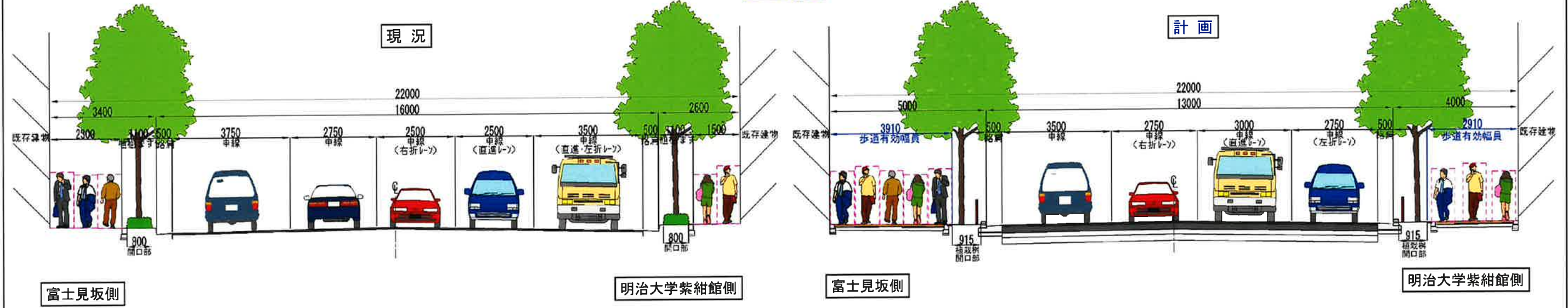
凡例

現況	—
計画	—



※図中の寸法は、歩道有効幅員(最小)

A-A断面



富士見坂側

明治大学紫紺館側

富士見坂側

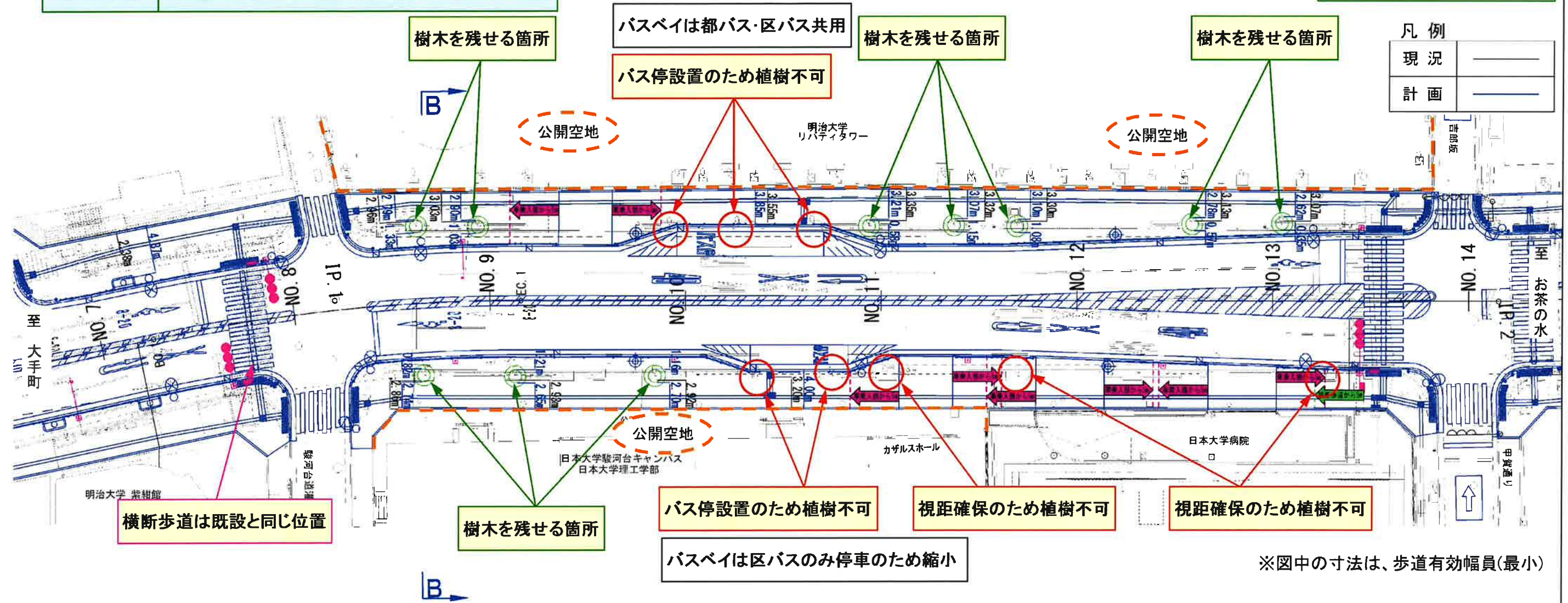
明治大学紫紺館側

Ⅱ 期工事区間 公開空地を利用し、既存樹木の保全を優先する区間

樹木を残せる箇所 合計 10 本

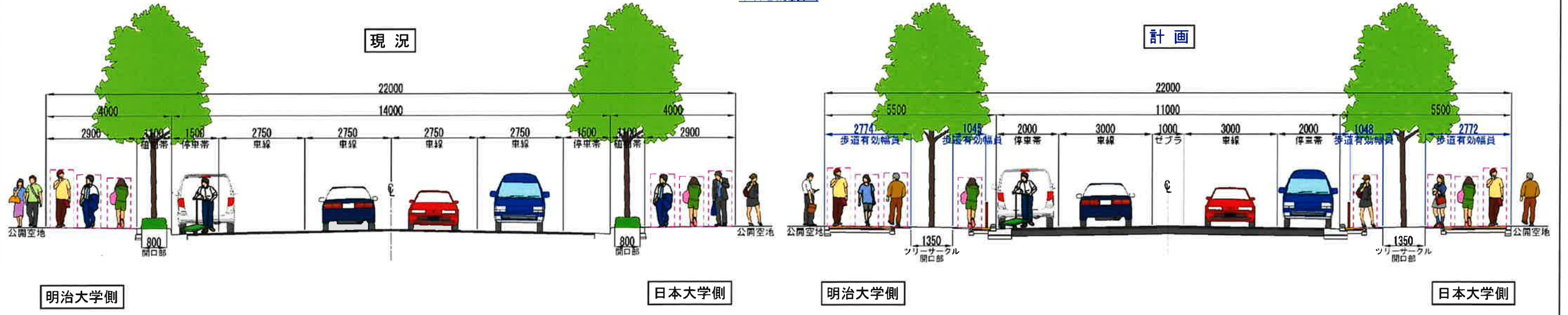
凡例

現況	—
計画	—



※図中の寸法は、歩道有効幅員(最小)

B-B断面



明治大学側

日本大学側

明治大学側

日本大学側